



(手前) 台湾で開かれた「超臨界流体」についての国際学会で発表し、最優秀賞に選ばれた星野倫太郎さん
星野さんは九州工業大

物質に一定の温度と圧力を加え、液体と気体の性質を併せ持たせた状態の「超臨界流体」をテーマにした国際学会「スーパークリーン2013」が11・15日に台湾で開かれ、川崎町の一般財團法人マルボシ酢・アスキー食品技術研究所の星野倫太郎さん(25)=田川市=が筆頭著者を務めたグループの発表が最優秀賞を獲得した。

川崎のマルボシ酢・アスキー研究所 星野さんら 「説明 分かりやすさ心掛け」

大学院の修士課程を修了後、4月に同研究所に入所。「職員を大学で学ぼることで開発技術を高める」という研究所の方針で、10月からは名古屋大学研究科の博士課程にも在籍している。研究の筆頭著者を務めたことで発表や質疑応答を担当することになり、「初めての国際学会でしかも英語。内容には自信があったので、自分の発表で評価を落とさないよう分かりやすさを心掛けた」と振り返る。

星野さんは「レベルの高い学会での受賞なので自信になる。これからも世界に発信できる研究を続けたい」と話した。

(糸山信)

新技術国際学会で最優秀賞

ミカンかすから3種のフラボノイド

栽培の過程で間引きされた温州ミカンの捨りかすを有効活用し、血圧を下げる効果などがあるフラボノイド系の物質を効果的に取り出す研究を発表。超臨界状態の二酸化炭素と水を使って同時に3種類のフラボノイドを取り出すことに初めて成功したという。星野さんら同研究所の関係者6人を含む9人による共同研究だ。

星野さんは九州工業大

大学院の修士課程を修了後、4月に同研究所に入所。「職員を大学で学ぼることで開発技術を高める」という研究所の方針で、10月からは名古屋大学研究科の博士課程にも在籍している。研究の筆頭著者を務めたことで発表や質疑応答を担当することになり、「初めての国際学会でしかも英語。内容には自信があったので、自分の発表で評価を落とさないよう分かりやすさを心掛けた」と振り返る。

星野さんは「レベルの高い学会での受賞なので自信になる。これからも世界に発信できる研究を続けたい」と話した。